

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
やさしく、かしこく、たくましい 三根西っ子の育成	①やさしい子を育む(思いやりを持ち、助け合う子供の育成) ②かしこい子を育む(進んで学び、よく考える子供の育成) ③たくましい子を育む(生き生き活動する元気な子供の育成)

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価

①やさしい子を育む(思いやりを持ち、助け合う子供の育成)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●心の教育	「特別の教科 道徳」を要とした道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画に従い、35時間の授業を実施する。 「考え議論する道徳」に取り組む。 授業参観で、道徳の授業を1回以上実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を有効に使い、主体的・対話的で深い学びを実践する。 ふれあい道徳の実施に伴い、計画的に参観授業を行うとともに、通信等で共通理解を図る。 	道徳	庄島
教育活動	●いじめの問題への対応	人権が尊重される、環境づくり、人間関係づくり、学級活動づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ふわふわ言葉、ふわふわアクションあふれる学校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> こころの集会、学級活動等で、ふわふわ言葉・ふわふわアクションに関する取り組みをし、意識の高揚を図る。 児童会が主体となって、ふわふわ言葉、ふわふわアクションを推進する取り組みを計画し実行する。 	人権・同和教育 特別活動 教育相談	荒木 大久保 飯田 石丸
		自己指導力を高める生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 進んであいさつをする児童を育成する。 ごみを放置しない学校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> あいさつを年間通した生活のめあてに設定し、意識付けを図る。 傾聴し合う仲間づくりの意識付けを図る。 「ごみゼロ活動」の実施による意識付けを図る。 	生徒指導	川原

②かしこい子を育む(進んで学び、よく考える子供の育成)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●学力の向上	校内研究の推進	<ul style="list-style-type: none"> 全員1回以上の研究授業を行う。 講師招聘により、指導力の向上を図る。 校内研修の充実のために大学の教授等を数回招聘し、理論研究の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 低・中・高学年グループで1回ずつ全員参観の授業研究会を行う。部会ごとの授業研究会も実施する。 指導講師から、低・中・高学年部会ごとに、実態に応じた教材研究や単元計画づくり・指導案検討などの具体的な指導を受ける。 指導講師と連携しながら、長期休業中に理論研究を行う。 他校の研究会への参加を奨励する。 	校内研究 学力向上対策CO	江口 原口
		読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学年の目標冊数(低学年・・・120冊、中学年・・・100冊、高学年・・・80冊)を80%の児童が達成する。 学年の「おすすめの本」30冊を80%の児童が読む。 	<ul style="list-style-type: none"> すきま読書を推奨する。 「学年の目標冊数」「おすすめの本30冊」の意識づけを年間通して図る。 図書館から出される各児童の貸出冊数の資料を通して実態を把握し、次学期、個別に具体的に読書指導を行う。 多読者のみでなく、昨年度は目標達成できなかった児童の中から今年度冊数を伸ばしている児童を賞賛する。 	図書館教育	庄島
教育活動	○特別支援教育	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の教育的ニーズを把握する。 個々の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善、又は克服するための適切な指導、必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談連絡会を年4回、週1回実施の連絡会にて、教職員間の情報共有を行い、指導・支援の連携を図る。 報告・連絡・相談を迅速に行い、保護者とともに、専門機関やSSW・SCとの連携を密に行う。 	特別支援教育 コーディネーター	荒木

③たくましい子を育む(生き生き活動する元気な子供の育成)

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 90%の児童が、朝食を摂って登校する。 食育への関心を高める実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 食育の授業を年に1回は各学級で行う。 朝の健康観察で朝食摂食の実態把握を毎日行う。 授業や学級活動において、「食育アンケート」「早寝・早起き・朝ごはんアンケート」の結果を生かした実践を行う。 給食の献立紹介時に、栄養素の紹介をし、食品に関心をもたせる。 	給食主任 食育	原口
教育活動	●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちがあると答える児童を80%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 「夢の教室」の実践を通して、6年児童に夢を持つこと、それに向けて努力することの大切さを理解させる。 	小中連携 教務	川原 教務 教頭

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌 (部)	担当者
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務の明確化 教職員の連携促進	<ul style="list-style-type: none"> 担当する分掌事務を、その目的やねらいを明確にして、スリム化を図る。 業務改善につながるアイデアを各自1つ以上出し合い、チーム力の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務シェアボードの閲覧機能を活用し、行事や取組の諸連絡とねらいに応じた振り返りをタイムリーに行う。 限られた時間を有効に使う意識で、校内の「ひと・もの・こと」の改善点を出し合う場を学期に1回設定し、実行に移す。 円滑な教育推進のために、毎週はじめに、校長、教頭、教務、事務職員で打合せを行う。 	校長 教頭	校長 教頭
	○開かれた学校づくり	地域連携、幼保小中連携の推進	<ul style="list-style-type: none"> 授業参観や学校行事における児童の家族及び地域住民の来校者を前年度比10%増を目指す。 三根校区の幼保、三根東小、三根中との交流行事に関わる児童及び教職員数の前年度比増を目指す。 地域連携を図るため、推進するための話し合いの場をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 1つの行事の案内を複数の場面でいき、期日や内容の事前周知を図る。 学校ホームページの更新を定期的に行い、教育活動の様子を随時伝える。 三根校区幼保小中の会議や研修、交流会の事前周知・情報共有を図る。 地域連携の連絡会を年に1回以上実施する。 	連携部	教頭 教務

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目